

令和 4 年緑化推進運動功労者

〔個人〕

さわ こうじ
澤 幸司

(滋賀県栗東市)

ほりた みのる
堀田 稔

(山口県美祢市)

〔団体〕

ひ の でんりょく かぶしき がいしゃ
陽野ふるさと 電力株式会社

(埼玉県秩父市)

おおはらにしこうえん あいごかい
大原西公園愛護会

(神奈川県横浜市)

しずおか けんりつ いわた のうぎょう こうとう がっこう
静岡県立磐田農業高等学校

(静岡県磐田市)

てらだによすい と ち かいりょうく
寺谷用水土地改良区

(静岡県磐田市)

きょうたん ごながおかみどり しょうねんだん
京丹後長岡緑の少年団

(京都府京丹後市)

すみとも こうぎょう かぶしき がいしゃ いちじまこうじょう
住友ゴム工業株式会社 市島工場

(兵庫県丹波市)

え こ か いんかい
ECOKA委員会

(奈良県生駒市)

あじさい とも かい
あじさい友の会

(島根県益田市)

しーず
Seeds

(山口県柳井市)

かぶしき がいしゃ ひらいりょうり ぶっしょうざん もり
株式会社平井料理システム「仏生山の森」

(香川県高松市)

さくらじま しょくじゅさいじっこういんかい
桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会

(鹿児島県鹿児島市)

[個人]

さわ こうじ
澤 幸司

滋賀県栗東市

<功績の概要>

同氏は、平成 10 年の定年退職後、金勝生産森林組合の理事、組合長理事を務め、森林認証の取得や認証材の販売、J-クレジットの認証、都市住民・企業との協働による森づくり等の取組を進めてきた。

同氏の尽力により、金勝生産森林組合では、平成 23 年に滋賀県内の森林所有者として初めて、持続性や環境保全に配慮した森林を認証する SGEC 森林認証を取得するとともに、平成 30 年には、認証森林から産出された認証材を新国立競技場の軒庇材として出荷するなど県産材の利用拡大に取り組んできた。また、滋賀県で初めて J-クレジットの認証を受け、県内の企業にクレジットを販売するなど、地球温暖化防止などの環境貢献活動に取り組む企業の支援にも取り組んでいる。令和 3 年 3 月にはカルビー株式会社と森林整備に関する協定を締結し、4 月に協定記念植樹会を行った。

さらに、栗東市の森を地元企業が守る「栗東きょうどう夢の森プロジェクト」などにより都市住民と協働した森林づくり活動に積極的に取り組むとともに、自然共生型アウトドアパーク「フォレストアドベンチャー」の誘致に尽力し人々を森林に誘う仕組み作りに大きく貢献した。

[個人]

ほりた みのる
堀田 稔

山口県美祢市

<功績の概要>

同氏は、昭和 35 年から家業の農業のほか、林業用種苗の生産に従事し、スギ・ヒノキ・マツ・クヌギ・その他広葉樹などの山行苗木を生産してきた。最盛期には年間 30 万本の苗木を山口県下各地に出荷するなどし、高度成長期において荒廃した県土の緑化に大いに貢献した。現在でも、年間約 17 万本の山行苗木を生産している。

また、昭和 58 年からは山口県樹苗生産農業協同組合の理事、平成 22 年から副組合長として、林業用苗木の計画生産や円滑な需給調整等を中心となって担うなど、長年にわたり県の造林事業を支えてきた。

さらに、平成 21 年度からは少花粉スギの母樹林を造成し、挿し木苗の増殖に取り組んでおり、国有林や市町有林を中心に年間約 2 万 5 千本の苗木を供給するなど、新たな品種・技術の普及に大きく貢献している。

このほか、低コスト再造林を推進する上で欠かせないコンテナ苗の生産にも早くから取り組んでおり、先進事例も参考にしながら、様々な試行錯誤を重ねて培った生産技術を基に、山口県樹苗生産農業協同組合の組合員等に対する技術指導を積極的に行うなど、県におけるコンテナ苗の生産拡大に大きく貢献している。

[団 体]

ひ の でんりょくかぶしきがいしゃ
陽野ふるさと電力株式会社

所 在 地 埼玉県秩父市
代 表 者 代表取締役社長 長谷川 辰巳

<功績の概要>

同社は、ボランティア団体「陽野ふるさと会」を前身に持ち、20年以上にわたり里山再生保全事業を行い、緑化活動に努めている。

前身の陽野ふるさと会は、地区の全世帯が加入し結成されたボランティア団体で、地域住民同士の交流も兼ねて、草刈り、害獣除けとして曼珠沙華などの植栽、遊歩道の木橋の修繕等の里山整備活動を毎年行ってきた。

また、観光事業として、コロナ禍前までは「春の道草展」という民家の軒先に絵画や写真を飾るイベントを開催し、地域活性化に繋げてきたが、会員の高齢化や予算の確保の問題もあり、安定した活動が困難となった。

そこで、団体や活動の維持、地区の後継者の育成のため、魅力的な地域づくりに向けて、溪流という地域の特性を活かしたマイクロ水力発電事業を展開することを決断し、住民などの出資のもと、陽野ふるさと電力株式会社を設立した。売電収入は地域住民のボランティア活動資金に充てており、里山整備事業の発展や様々な事業の展開を計画している。将来的には、発電を利用した、高齢者や障がい者向けの自動運転エコカーの配置も計画している。

[団 体]

おおはらにしこうえんあいごかい
大原西公園愛護会

所 在 地	神奈川県横浜市
代 表 者	会長 <small>しぶや はちろう</small> 渋谷 八郎

<功績の概要>

同会は、大原西公園において、公園が公開された昭和51年当初より樹木の手入れ、花壇の管理、除草、清掃等の活動を継続的に行っている。

同会は自治会員約360世帯すべてが構成員となっており、地域一体となって活動を行っている。「花と緑と人が一体のまちづくり」を目標に、連合自治会、小学校等と連携しながら、地域の子供たちと花苗の植え付けなど緑化活動に積極的に取り組んでいる。

加えて、年間を通して防災訓練やもちつき大会なども開催し、地域の結びつきを高めるとともに、週4～5回の公園での緑化活動を続け、これらの活動をまとめた季刊誌を発行するなど、広報にも努めている。

また、近隣企業、町内会、小学校や団体と連携して、中堀川プロムナードの清掃、植栽、ホタルの育成等を行う「中堀川いこいの場づくり」を続け、幅広い世代に環境の大切さを広めている。

同会は公園のみならず様々な主体を活動の輪に加えながら、地域に根差した取組を行い発展し続けている。

[団 体]

しずおかけんりついわたのうぎようこうとうがっこう
静岡県立磐田農業高等学校

所在地	静岡県磐田市
代表者	校長 望月 久資

<功績の概要>

同校では、樹木主体の庭園、ビオトープ、古墳である小さな森や花壇、校内のプランターなど多くの緑を管理育成している。庭園等の緑地を樹木管理や調査、樹木説明看板製作、環境調査等の教材として活用するとともに、花壇・プランターでの苗づくり・栽培管理を通じた体験を教育に活用している。さらに、バラ園では150種類、1,500株のバラを栽培管理し、地域住民に公開することで、地域の憩いの場となっている。

また、磐田市と連携した市内公園花壇の栽培管理や、駅前の放置自転車対策として、近隣の特別支援学校や地元企業と連携した草花プランターの設置を行っている。さらに、保育園の園児を対象とした押し花体験やシニアクラブを対象とした寄せ植え体験等の地域交流活動を行うなど、身に付けた知識・技術を活かし、市内の中核的役割を担う農業高校として、長期間継続的に緑化推進とともに地域貢献活動を実践している。

令和2年には、県内高校として初めて「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナー」の委嘱を受け、静岡県と協働で絶滅危惧高山植物の種子増殖プロジェクトなどの自然保護及び環境保全活動等にも積極的に取り組み、大きな成果を上げている。

てらだにようすいとちかいりょうく
寺谷用水土地改良区

所 在 地	静岡県磐田市
代 表 者	理事長 池田 藤平

<功績の概要>

同改良区は、農家を組合員として農業用施設等の維持管理等を行っている団体であり、天正 16 年に天竜川から水を引き入れたことを起源とし、以来 400 年以上にわたり静岡県磐田市をはじめとする天竜下流地域の農業の発展に大きく貢献している。

同改良区では、長年農業用水として利用してきた天竜川への感謝の意を表すとともに、この環境を末永く後世へ継承していくために、天竜川筋の奥地（現浜松市天竜区水窪地内）の裸山を借受け、昭和 31 年から、水を育む森を守る「水源涵養育成事業」を実施し、60 年以上にわたり維持管理を続け、平成 29 年度には、事業を実施した水源涵養林を取得した。

本事業では、水源涵養林としての機能を持つ森林環境を保つため、組合員自ら遊歩道の清掃や森林の観察等を継続して実施しており、水源地への関心を深め、節水への意識を高める役割を果たしている。

また、水源地の維持管理活動のみにとどまらず、収穫された米の寄贈を通じた水源地の住民との交流活動や、下流域の子供達への水に関する教育活動など、幅広い活動へと広がっており、取組を発展させるとともに、継続的な取組を続けている。

[団 体]

きょうたんごながおかみどり しょうねんだん
京丹後長岡緑の少年団

所 在 地 京都府京丹後市

代 表 者 団長 嶋田 喜一

<功績の概要>

同団は、緑を守り育て、地域の環境を保全していくことを活動の柱として、30年間にわたり継続的に活動してきた。新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、団員たちの熱意もあり、年間20回の活動を行うなど、熱心に活動に取り組んでいる。

中でも、次世代に豊かな里山を引き継いでいくため、コナラやミズナラ等の苗木の植栽、下刈り作業などの継続した手入れ、森林観察会、水生生物調査、地元のスギを使った木工教室など、地元の森林に親しみ学ぶ学習活動に長年取り組んでいる。

また、椎茸や地域の特産物であるサツマイモ及び黒大豆の育成、そして自然の恵みを体験する収穫作業などの野外活動を行うほか、公民館における緑のカーテンの育成を通じた地域住民への地球温暖化防止対策効果のPRを行っている。さらに、緑の募金活動や特定外来生物であるオオキンケイギクの除去、散乱ゴミの回収などの奉仕活動にも取り組んでいる。

少子化が進む中でも毎年多くの子ども達が入団し、OBが指導者となって活躍するなど、多くの地域住民が関わり、次世代へつなぐ活動を展開している。これらの活動を通じて、子どもたちがふるさとの自然環境について学び、地域の環境保全、緑化推進に大きく貢献している。

[団 体]

すみとも こうぎょうかぶしきがいしゃ いちじまこうじょう
住友ゴム工業株式会社 市島工場

所 在 地 兵庫県丹波市

代 表 者 代表取締役社長 やまもと さとる
山本 悟

<功績の概要>

同工場は、平成8年の操業時から工場敷地内の原生林を守りながら、芝生や桜並木を整備する等の工場緑化に取り組んでいる。工場緑化にあたっては、生物多様性の観点から、落葉広葉樹を導入する等の針広混交林化にも取り組んでいる。

また、敷地内の緑地・環境施設を利用し、貴重な生物の保全活動も行っており、平成19年よりオオムラサキの幼虫が食樹とするエノキを実生から育て、平成23年には社員で設計・製作した飼育ケージでオオムラサキの生育活動を開始し、近隣の園児を招待したオオムラサキの鑑賞会を継続的に行っている。

また、社員の手により、平成27年に敷地内にビオトープを設置し、平成28年には「丹波地域のホトケドジョウを守る会」により絶滅危惧種であるホトケドジョウの危険分散地として承認されたことから、ホトケドジョウの保護・生育のための継続的な管理を行っている。

さらに、平成30年より、近隣の園児を対象に自然学習として工場敷地内でのドングリ拾いイベントを実施する等、緑地を活用した、地域交流・環境教育活動にも熱心に取り組んでいる。

[団 体]

え こ か いんかい
E C O K A 委員会

所 在 地 奈良県生駒市

代 表 者 やまだ いさお
山田 勲

＜功績の概要＞

同委員会は、地区の公園、街路植樹帯、緑地の樹木の保護・維持・管理、緑化促進、環境教育、地域イベントなどの活動を行っている。

街並み景観と沿道景観を向上するため、住環境の維持保全活動として約 12ha の緑地において、間伐、枯損木処理、雑草木刈り、侵入竹皆伐、不法投棄ごみの集積・回収のほか、1,300 本以上の植樹などの緑化活動を実施している。

また、住民の健康維持・増進に寄与するため、緑地における遊歩道の整備、杉丸太階段の作設、森林ウォーク、シイタケ狩り、お花見会などを毎年実施するとともに、地元の子供たちと緑地と接する川において、ゲンジボタルの幼虫の放流活動も実施している。

さらに、花と緑に囲まれた四季彩のまちづくりのため、緑地以外の活動として、地区内の 6 か所の花壇において、年 2 回の花苗の植え付け、毎日の水やりなどの管理を行っている。これに加え、所有者の協力を得て地区内の未利用地の一部を「鹿ノ台オープンガーデン」として整備し、チューリップ 5,000 株やユリ、ジャーマンアイリス、菊、ダリアなどを育て、四季を通じた憩いの場として市民に開放し、賑わいを創出している。

[団 体]

あじさい^{とも}友^{かい}の会

所 在 地	島根県益田市
代 表 者	会長 石田 ^{いしだ} 佳夫 ^{よしお}

<功績の概要>

同会は、平成2年から「豊川地区ふるさとおこし推進協議会」として、緑化・環境美化活動をボランティアとして行ってきた。

平成5年からは「あじさい」による花街道づくりに着手し、平成7年からは国道191号沿いにプランター200鉢を配置するなど道路の緑化活動を推進してきた。平成8年には、緑化・環境美化運動の部門が独立し「あじさい友の会」として、活動を定期的に行っている。

プランターによる花壇づくりは、地元の保育園の園児や小学校の児童とともに花の植え付けや土づくりを行うことで、継続した取組が可能となり、地域の恒例行事として地域の緑化・美化の推進に貢献するとともに、児童と高齢者の世代間交流の活性化にも貢献している。

また、毎月第2月曜日のボランティアの日には、国道191号沿線、市道及び広域農道の延べ10kmの区間を3つの区間に分けて清掃活動を行っている。

[団 体]

しーず
S e e d s

所 在 地	山口県柳井市
代 表 者	会長 西本 <small>にしもと</small> 利治 <small>としはる</small>

<功績の概要>

同団体は、地域の自然を活用した地域活性化を目的に、平成 14 年に結成した。平成 15 年からは、地域内外の子供を対象にした里山探検隊を開始し、グリーンツーリズムを基調とした自然体験学習を通して、地域や世代を超えた交流を促進している。

平成 18 年には、荒廃した里山を再生するため、4 ha の山林等を借り、100 人を超えるボランティアの協力や林業技術支援を得て、竹林伐採やクヌギを植樹するとともに、子供たちの自然体験学習拠点「お山の学校」として活用できるよう遊歩道やビオトープなどの整備を進めてきた。また、地元企業と連携して、伐採した竹を漁礁として活用するとともに、再生した炭焼き窯を活用して木炭を製造するなど、森林資源の循環利用にも取り組んでいる。

さらに、同団体の活動は地域行事として定着し、コミュニティ活動の活性化にも貢献しており、令和元年からは学校や地域と連携して新たな森林整備に取り組むなど、活動の場を広げている。

過疎化などの地域の課題解決に向けて、地域資源を見直し新たに活用するとともに、会報誌「シーズ通信」による広報活動等を通じて地域内外の幅広い世代を巻き込んで里山再生活動等に取り組むことにより地域に活力を与え、森林保全の推進、緑化思想の普及啓発や子供たちの健全育成に大きく貢献している。

[団 体]

かぶしきがいしゃひらいりょうり ぶっしょうざん もり
株式会社平井料理システム「仏生山の森」

所在地 香川県高松市

代表者 代表取締役 ひらい としひこ
平井 利彦

<功績の概要>

平成26年より高松市郊外の仏生山地区の香川県農業試験場跡地（約19,000㎡）にガーデン、ファーム、料飲施設（レストラン、カフェ、バーベキューテラス、料理教室）を整備し、令和元年に「仏生山の森」を開業した。以来、人々の憩いの空間を創出するために、「食」と「緑」の融合による花のまちづくりを行っている。

同社は、庭園や農園で収穫した作物を取り入れた食を通じて緑に触れることを中核に、県主催イベントへの会場の提供や、庭園の草木や花を通じた地域住民や病院・デイケアセンター、保育所の利用者との交流を積極的に行っている。

また、毎年「ひまわり祭り」などのイベントを開催して、より広範囲に仏生山地区の魅力を発信するとともに、花と緑をツールとして、地域の人たちに癒しを提供しつつ、地域外の人たちともつながりを深めるなど、地域の活性化を図っている。

さらに、農園管理担当のスタッフを配置することで、一年を通して美しさや豊かさを身近に感じてもらえるよう植栽し、加えて農薬の使用を極力抑えた管理を行うとともに、園芸及び農業残渣を堆肥化・循環利用を進めることで、環境への負荷を低減した「100年続く庭」をスローガンに、持続的な緑の環境づくりに貢献している。

[団 体]

さくらじま しよくじゆさいじっこういんかい
桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会

所在地 鹿児島県鹿児島市
代表者 実行委員長 地福 じふく 俊幸 としゆき

<功績の概要>

同実行委員会は、平成 13 年に「地球に緑を 桜島を緑に」をスローガンに桜島の景観保全と植樹体験を通じた人間性の育成、環境意識の醸成を目的に発足した。緑の少年団とともにドングリの種拾い、種まき、鉢上げ、鉢替等の育苗活動を行い、育てた 3 年苗（50 c m）は「桜島どんぐりころころ植樹祭」において植栽されている。青少年の緑化体験活動を通して「豊かな心の育成」や「生物多様性保全への関心・意欲の高揚」に努めている。

平成 14 年から開催している「桜島どんぐりころころ植樹祭」には、これまでに鹿児島市や垂水市の小中学校から約 9,800 人が参加し、4.3ha に約 23,000 本のドングリから育てた苗を植栽しており、令和 3 年 2 月には 20 回目を迎えた。

また、植樹祭以外にも下刈りや枝打ちなど、年間を通じて森林整備を行うとともに、平成 25 年からは「かごしま CO2 吸収量認証制度」の認証を受けている。

さらに、桜島の砂防工事における土砂流出の抑制や良好な景観形成のための植樹活動、令和元年の大雨による土砂崩れのため埋没した寺山炭窯跡周辺の復興にあたり、ドングリから育てた苗の提供等を行っており、緑化活動を通じたまちづくりや地域の安心・安全にも貢献している。